

初級 トキポナ文法簡介

lipu lili pi toki pona kepeken toki Nijon

tan jan Nanko (notolyte.github.io)

発音

j

/j/

ヤ行

a	e	i	o	u
ア	エ	イ	オ	ウ
k	l	m	n	p
カ	ラ	マ	ナ	パ
s	t	w		
サ	タ	ワ		

濃い枠がメインの説明，薄い枠がサブの説明です。薄い枠は，余裕のあるひとは読んでください。

トキポナの発音はおおむねローマ字読みで事足ります。しかし，jはヤ行の子音であることに注意が必要です。

アクセント

アクセントは単語の第一音節にあります。

表記体系

トキポナの表記体系としてもっともよく使われるのはラテン文字です。しかし，シテレンポナと呼ばれる表語文字や漢字などで表す方法も提案されています。

主部・述部

pan *li* moku .

パン
主部

食べ物だ
述部

kala *li* lon telo *li* pona moku .

魚
主部

水中にいる
述部

おいしい
述部

mi *pilin ike* *li* moli .

私
主部

つらい
述部

死ぬ
述部

トキポナの文では、まず主部をいって、次に述部を続けます。述部は先頭に« li »をつけてその始まりを表します。2例目のように、複数の述部を設けることもできます。

ただし、主語が« mi »「私」または« sina »「あなた」の場合は、最初のliを必ず省略します。

例文の意味

パンは食べ物だ。

魚は水中にいて、おいしい。

私はつらくて死んだ。

述部について

pan li moku.

パン

食べ物

パンは食べ物だ

kili li suwi.

果物

甘い

果物は甘い

jan li moli.

人

死ぬ

人は死ぬ

トキポナの述部は、名詞、動詞、形容詞とその句に分類できます。

日本語や英語では、名詞を述部にするとき、「だ」「is」のような特別の語を必要としますが、トキポナでは必要ありません。

動作の対象

soweli li moku **e** kasi .

動物

食べる

植物

動物は植物を食べる。

mama li alasa **e** kili **e** soweli .

親

狩る

果物

動物

親は果物と動物とを狩る。

目的語は、動詞のあとに置きます。そのときには、先頭に「e」をつけて、動作の対象を表す語の始まりを表します。

動作の対象が複数ある場合、2例目のように、2つ続けてかけばよいです。

修飾

lipu loje

葉 赤

赤い葉

tomo sina.

家 あなた

あなたの家

tawa sewi

行く 空

飛び行く

pona kute

よい 聞く

聞き心地がよい

moku mute.

食べる 多い

たくさん食べる

後ろの語は前の語句を修飾します。名詞，形容詞，動詞は，修飾語になることも被修飾語になることもできます。

品詞

トキポナの単語は，意味的に可能な限り，名詞，形容詞，動詞など，どんな品詞で使うこともできます。その点では，名詞や動詞，形容詞といった呼び方はトキポナではナンセンスですが，初学者の学習の便のために敢えて採用しています。

前置詞

ona li *lon* ma ni .

それ 場所 これ

それはここにある。

soweli li lape *lon* insa lupa .

動物 寝る 中 穴

動物が穴の中で眠る。

soweli *lon* tomo mi li suwi .

動物 家 私 かわいい

私の家にいる動物はかわいい。

前置詞を使うと、修飾の意味が明確になります。例文の「lon」は場所を表す前置詞です。前置詞句は単独で述部になることもできますし、動詞や名詞を修飾することもできます。

ほかの前置詞

kepeken	～を使って
sama	～のように
tan	～から、～だから
tawa	～へ

否定

kasi li toki *ala*.

植物

話す

植物は話さない。

kasi li toki e *ala*.

植物

話す

植物は何も話さない。

akesi li suwi *ala*.

トカゲ

かわいい

トカゲはかわいくない。

jan *ala* li moku e kiwen.

人

食べる

石

誰も石を食べない。

否定は、「ala」を用いて表します。その位置は動詞や名詞、形容詞のあとで、目的語や前置詞句よりは前です。

また、「ala」は英語の「no」に相当する形容詞として用いたり、「nothing」に相当する名詞として用いることもできます。

諾否疑問

sina *moku ala* *moku* e soweli?

あなた

食べない

食べる

動物

あなたは肉を食べますか。

ni li *pipi ala* *pipi* ?

これ

虫ではない

虫

これは虫ですか。

waso li tawa sewi *anu seme* ?

鳥

行く

空

鳥は飛びますか。

文を諾否疑問にするには、二つの方法があります。

ひとつめは、述部の動詞、名詞、形容詞について、まず否定の形をいい、次に肯定の形を並べる方法です。

ふたつめは、文末に「anu seme」をつける方法です。

選択疑問・疑問詞疑問

sina moku e *seme*?

あなた 食べる 何

あなたは何を食べますか。

jan *seme* li kama?

人 何 来る

誰が来ますか。

sina olin e mi *anu* ona ?

あなた 愛する 私 あのひと

あなたは私とあのひとのどちらを愛しますか。

疑問詞疑問は「seme」を使って表します。この語も他の品詞と同様に、名詞としても形容詞としても働きます。語順が変わることはありません。

選択疑問は「anu」を使って表します。「anu」は、目的語や副詞、主語など、どのような等位の概念も比べられます。

疑問で多用される表現

ma seme (何の場所, どこ)

tenpo seme (何の時, いつ)

kepeken nasin seme (何の方法を使って, どのように)

*pi*の用法

kala sulī mute

魚 大きい たくさん

たくさんの大きな魚

kala *pi* sulī mute

魚 大きい たくさん

とても大きい魚

トキポナは後置修飾ですが、修飾関係は前から順に決まります。1例目を見てみましょう。3語目は、1語目と2語目からなる複合語を修飾しています。

では、2語目と3語目を修飾するにはどうすればよいでしょう。修飾の順番を変えるには、「pi」を用います。「pi」は、直後の2つの語句の修飾関係を先に結ぶことを示します。2例目を見てみてください。

固有名詞

jan Talo

人

太郎（人名）

toki Inli

言語

英語（言語名）

ma Tosi

場所

ドイツ（地名）

jan Tosi

人

ドイツ人（民族名）

トキポナの固有名詞は、大文字から書き始めます。文頭の文字は大文字にはしません。

固有名詞を使うときには、それが何であるか、先に普通名詞で示します。

固有名詞は、トキポナの音韻体系に沿った形にします。トキポナの音素は、一枚目のスライド「発音」を見てください。末子音にはnのみが現れます。母音連続はなく、wやjといった子音を補います。

janのあとにくる固有名詞は、個人名である場合と民族名である場合とがあります。

有名な固有名詞

ma Nijon	日本
ma Anku	韓国・朝鮮
ma Sonko	中国
ma Kanse	フランス
ma Epanja	スペイン
ma Mewika	米国
ma Lusi	ロシア
jan Sonja	トキポナ作者

laの用法

jan olin li pilin pona, *la* mi pilin pona.

人 愛 感じている よい 私 感じている よい
恋人がうれしければ私もうれしい。

tenpo pini, *la* mi lon ma Nijon.

時 終わる 私 ~に 場所 日本
私は昔、日本に住んでいた。

tan seme, *la* jan li moli?

~だから 何 人 死ぬ
どうして人は死ぬのですか。

「la」を用いて、主節の事象が
起こる時や状況、背景などを
示します。「la」の前には時や
状況、背景を示す文や語句を
置き、後には主節を置きます。
なお、一文に二回以上用いる
のは望ましくありません。

頻用表現

tenpo ni la	今
tenpo kama la	将来
tenpo suno ni la	今日
tenpo suno kama la	明日
tenpo suno pini la	昨日
ken la	たぶん

数と色

jan luka luka tu wan

5

5

2

1

13 (=5+5+2+1)

jan Silo li kama *nanpa* tu wan .

人

来る

数

2

1

次郎は三番目に到着した。

jan mute li esun e len laso jelo .

人

たくさん

買う

服

青

黄

多くのひとが緑色の服を買っている。

基数は, luka 「5」, tu 「2」, wan 「1」 を適宜足し合わせて表現します。この順に並べます。

序数は, 基数の先頭に nanpa をつけて表します。

色は, walo 「白」, pimeja 「黒」, loje 「赤」, laso 「青」, jelo 「黄」 を組み合わせて表します。

数や色の表現では, pi は使いません。

文を受ける *ni*

mi tawa ala tan *ni*: sijelo mi li ike .

私 行く 否定 だから これ 身体 私 悪い
体調が悪いので私はお休みします。

mi sona e *ni* tan lipu: ona li ike ala .

私 知る これ から 本 あのひと 悪い 否定
私は本で読んで、あのひとは悪くないと知っている。

代名詞のni「これ」は、前後の文を受けることができます。

後の文を受ける場合、前の文と後の文の間は、ピリオドではなく、コロンで区切ります。niと後の文の間にはほかの語句があってもかまいません。

小辞

mi pali mute. *tasō* mi jo e mani lili.

私 働く たくさん しかし 私 持つ 金 少ない

私はよく働いている。しかし私は貧しい。

moku ni *en* telo ni li pona *a*.

食べ物 これ 飲み物 これ よい 感嘆

この食べ物と飲み物はおいしいなあ。

jan Janako *o,* lawa sina li pona.

人 花子 頭 あなた 良い

花子さん、あなたは頭がいい。

文頭に置く接続詞は*tasō*のみです。*tasō*は逆接として働きます。順接の場合は何もつけません。

複数のものが主語になるときは、*en*で繋がります。*en*は主語以外では使えません。

文末の*a*は感嘆の語気を表します。

名詞のあとに「*o,*」を置き、呼びかけを表します。カンマは必ず置きます。

助動詞

mi *wile* tawa ma Osaka.

私 欲する 行く 場所 大阪
私は大阪に行きたい。

jan Jumi li *ken ala ken* moku e kala?

人 ゆみ できる 否定 できる 食べる 魚
ゆみさんは魚を食べられますか。

動詞の前に助動詞を置き、意味を付加することができます。助動詞がある文を否定や疑問の文にするときにはそれぞれ、助動詞の後にalaをつけ、助動詞の否定形と肯定形を並べます。

その他の助動詞

awen	～し続ける
kama	～になる
lukin	～してみる

助動詞を含んだ頻用表現

kama sona	学ぶ
-----------	----

命令

jan mute o musu.

人 たくさん 楽しむ
皆さまでどうぞお楽しみください。

o kute.

聞く
聞いてください。

sina o moku mute.

あなた 食べる たくさん
あなたはたくさん食べてください。

jan Juki o tawa tomo li lape.

人 ゆき 行く 家 寝る
ゆきさんは帰って寝てください。

ふつうの文を命令文にするには、liをoに変えます。2例目のように、主語がmiやsinaの場合でも、oは省略しません。3例目のように、liが複数ある場合は、最初のひとつだけをoにします。右列の例のように、ふつうの文では主語は省略できませんが、命令文では省略が可能です。省略する場合でもoはつけます。

呼びかけのoと異なり、命令のoの際にはカンマをつけません。